

## 6. メディアコミュニケーション学部 こどもコミュニケーション学科 履修モデル

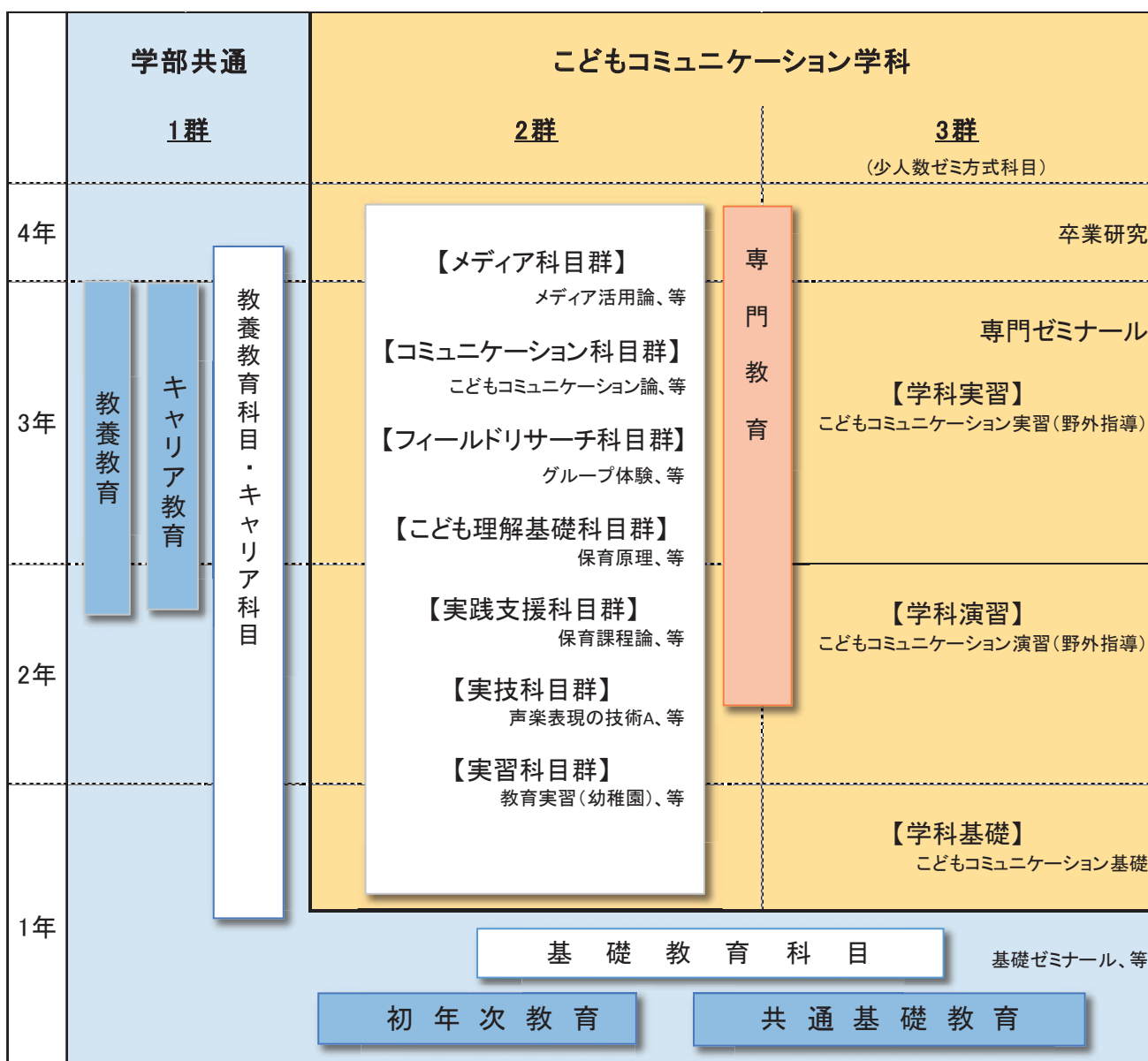
こどもコミュニケーション学科では、特別なコース分けをしていません。なぜなら、原則として学科の全学生が幼稚園教諭免許状及び保育士資格の取得を前提としているからです。

本学科が目指す理想的な保育者像は以下のとおりです。

- ①豊かな人間性を基礎に、教育に使命感や情熱を持ち、探求力を持ち学び続ける保育者
- ②専門分野に関する高度な知識・技能を持ち、こどもの最善の利益を考慮し実践できる保育者
- ③自らのコミュニケーション能力や対人関係能力を一層高いものとし、同僚・保護者・学校や保育支援に関わる関係者との協力関係を構築できる保育者

カリキュラムは、皆さんがこの理想像に一步でも近づくように編成されています。

### こどもコミュニケーション学科 カリキュラム構成図



学年ごとの履修モデル (免許状及び資格の取得には他の科目の履修も必要です)

特色	科目群	必 選	1年次		2年次	
			科目名	単 位	科目名	単 位
豊かな 人間性・ 使命感	1群・3群	必 修	地域ボランティアプログラムA	2	こどもコミュニケーション演習 (野外指導)	2
	フィールド リサーチ				グループ体験	2
コミュニ ケーショ ン能力	コミュニ ケーショ ン		こどもコミュニケーション論	2	コミュニケーションの心理学	2
			English LR Reading I	2	グループアプローチ	2
					こどもと読み聞かせ・児童文学	2
メディア 活用を 含んだ 専門的 知識・ 技能	メディア		メディア活用論 I	2		
	教育・保育 専門知識		保育原理	2	児童家庭福祉	2
			教育学概論 (初等)	2	保育課程論	2
			教育制度論 (初等)	2	保育内容総論	2
			社会福祉	2	教育方法学 (初等)	2
		保育者論	2			
		保育の心理学	2			
		幼児理解	2			
		こどもコミュニケーション基礎	2			
	教育・保育 専門技能	選 択	社会的養護	2	相談援助	2
					こどもの保健A	4
					健康	2
					人間関係	2
					環境	2
					言葉	2
					表現 (音楽)	2
					表現 (制作)	2
			生活	2		
			体育	2		
		声楽表現の技術A	2	身体表現の技術	2	
		器楽表現の技術A	2	言語表現の技術	2	
		造形表現の技術A	2			
		絵画表現の技術A	2			
教養教 育	基幹科目群	必 修	基礎ゼミナール	2		
			情報リテラシー	2		
			日本国憲法	2		
			健康・スポーツ科学	2		
		選 択	ことばと表現 (書きことば)	2		
			ことばと表現 (話しことば)	2		
		Reading & Speaking I	2			

特色	科目群	必 選	3年次		4年次	
			科目名	単 位	科目名	単 位
豊かな 人間性・ 使命感	3群	必 修	こどもコミュニケーション 実習（野外指導）	2		
			こども情報測定評価論	2		
メディア 活用を 含んだ 専門的 知識・ 技能	メディア	必 修	専門ゼミナール	4	卒業研究	4
	3群					
	実習	選 択	保育実習Ⅰ	4	保育実習Ⅲ	2
			保育実習指導Ⅰ	2	保育実習指導Ⅲ	2
					教育実習（幼稚園）	4
					教育実習事前・事後指導 （幼稚園）	2
	教育・保育 専門知識	必 修	保育相談支援	2		
			こどもの保健B	2	教育・保育実践演習	2
		選 択	こどもの食と栄養	2		
			家庭支援論	2		
乳児保育			2			
障害児保育			2			
	社会的養護内容	2				

#### 履修上の注意

- ①「Reading & SpeakingⅠ」「Reading & SpeakingⅡ」「Listening & WritingⅠ」「Listening & WritingⅡ」の4科目から1科目以上履修すること。
- ②「国語」「算数」「生活」「体育」「乳児保育」「障害児保育」「社会的養護内容」の7科目から4科目以上を履修すること。
- ③「身体表現の技術」「音楽表現の技術A」「音楽表現の技術B」「器楽表現の技術A」「器楽表現の技術B」「造形表現の技術A」「造形表現の技術B」「絵画表現の技術A」「絵画表現の技術B」「言語表現の技術」「総合表現演習Ⅰ（演劇）」「総合表現演習Ⅱ（オペレッタ）」のうち必修科目（下線がある科目）の4科目を含め8科目以上履修すること。
- ④「メディア活用論Ⅱ」「こども教材開発論」「こども教材開発演習」「生涯学習論」の4科目から3科目以上履修すること。
- ⑤「こどもと読み聞かせ・絵本」「こどもと読み聞かせ・メディア」「こどもと文学」「こども文学創作演習」の4科目から1科目以上履修すること。
- ⑥「保育実習Ⅱ」及び「保育実習指導Ⅱ」、または、「保育実習Ⅲ」及び「保育実習指導Ⅲ」のいずれか2科目以上を履修すること。
- ⑦実習指導の科目（「教育実習事前・事後指導（幼稚園）」「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」）の単位認定は、対応する各実習の単位を修得することが条件である。また、実習（「教育実習（幼稚園）」「保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」）の単位を修得するには、各実習指導の科目の単位を修得する見込であることが必要である。
- ⑧2014年以前入学生で本学科における1年間の履修登録は原則最大50単位までとする。  
2015年度以降入学生は前期・後期共に各26単位以下（自由科目の単位と下記の教職科目は除く）年間では49単位以下の履修登録になる。例えば、前期に26単位履修した場合、後期は23単位履修となる。

⑨2015年度以降入学生は、各年次に12か月以上在学し、2年終了時に50単位以上（自由科目の単位を除く）修得していることが進級要件となり、休学等で12か月在学できず、50単位以上修得がない場合は留年となり4年間では卒業できない。

○該当教職科目

保育者論・教育制度論（初等）・保育の心理学・保育課程論・教育方法学（初等）

## 選択科目を選ぶ指針

### 心理・福祉を中心に学ぶ

こどもに関する専門性を深めるこどもコミュニケーション学科では、保育所や幼稚園のみならず、学童保育や社会・児童福祉施設、こどもに関連する企業など、幅広い分野で活用できる心理社会的アプローチについて学修し、活躍できる人材の育成を目指しています。このような心理社会的アプローチは、発達心理学、臨床心理学、社会心理学、健康心理学の実証的な理論と、体系化された福祉の技術の蓄積に基づくものです。

ファーストステップとして、心理系の講義科目では、人の発達や人と人の関わり、心の仕組み等について、科学的な根拠に基づく知見について学びます。また、福祉系の講義科目では、具体的かつ実践的な支援に関する技術に裏打ちされた福祉学の知識や、最新の福祉現場の情報を学ぶとともに、子どもを取り巻く福祉領域の制度や法律といった背景も学びます。

次に、演習科目や施設での実習、ボランティアなどの体験学習を通して、子どもを取り巻く臨床的支援の場面で必要な、「課題を抽出する力」、「抽出した課題を解決する力」、「それら一連のプロセスを実践する力」を身につけ、知見に基づく技術の習得を目指します。

さらに、このような実践の蓄積を科学的根拠に基づいた方法で実証し、まとめ、第三者に伝えるといった目的を持つものが卒業研究であり、理論と実践を融合する技術の習得の集大成として位置づけられています。

#### 【該当する科目】

心理系の科目としては、「保育の心理学」「幼児理解」「コミュニケーションの心理学」「こどもの観察と分析」「グループアプローチ」「保育相談支援」といった科目が設置されています。

福祉系の科目としては、「現代の社会福祉」「社会福祉」「社会的養護」「児童家庭福祉」「相談援助」「家庭支援論」といった科目が設置されています。

### 教材開発を中心に学ぶ

メディアの果たす社会的役割を理解し、メディアが個人に与える影響について学び、メディアを活用した情報の記録・伝達・保管にかかわる各種技法を学ぶとともに、教材開発や教育方法において主体的かつより良いメディアの活用を目指します。

保育では従来から童話、絵本、紙芝居等のように、幼児の発達段階に合わせたメディアを教材として積極的に利用してきました。本学科においても、これらのメディアの活用を重視するとともに、PCによる従来の媒体の活用や幼児用放送番組の利用など、多様なメディアを保育に活かすことのできる実践力の育成を図ります。

また、メディア活用能力は保育者としての専門性向上に活かすこともできます。多目的ルームの施設・設備を活用することにより、指導実践や模擬指導を日常的に映像記録として保存することができます。その記録は指導の振り返りとして、様々な場面において活用することができ、実践力育成に大きな役割を果たすことができます。